

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）はしばらくの間、中止させていただきます。

★「おうちでおはなしかい」（9月）

おうちでおはなし会をはじめよう！ちっちゃいおともだち、あつまれ！当館でのおはなし会ができない間、ホームページ上でおはなし会のプログラムと関連する絵本の紹介をします。ご家庭でおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。[http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai\\_web\\_202009](http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai_web_202009)

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『なでなでなで』 にへいたもつ/作 KADOKAWA 2020.7 ¥980

「こねこちゃん まあるいあたまは どこかな？どこかな？」「かわいいうあたま なでなでなでなで だーいすき」こぐまちゃんのおくちは？こぶたちゃんのおはなは？きりんちゃんのおくちは？ぞうちゃんのおみみは？あかちゃんのおかおは？見つけたら、優しく優しく「なでなでなで」してあげてね。しっかりスキンシップしながら、繰り返しを楽しみたい絵本。

＜絵本－3, 4歳から＞

『ますくちゃんではばんです』 よこみちけいこ/作・絵 ニコモ 2020.6 ¥1300

コンコンくしゅんが止まらないはなちゃん。そこへびゅーんとますくちゃんがとんできた。ところが、はなちゃん、いらないとますくをばーい！ますくをしないと、はなちゃんの大きなくしゃみで、悪いばいきんがみんなのところに飛んでいっちゃうよ。みんなが病気になるっちゃうよ。マスクを着用することの効果も、わかりやすくお話にして紹介する絵本。

『ねんねこ』 ザ・キャビンカンパニー/作・絵 小学館 2020.7 ¥1300

10時になっても、ちっとも寝ようとしないこねこちゃん。「それならママとゆめのなかであそびましょ」「ゆめのなかでねまをあわせるの」お空で、海で、動物園で、秘密基地で。待ち合わせ場所を次々と想像していくが…。こねこちゃんは寝たかしら？「…まだねてないよう。つきはどこななの？」「あらあら じゃあ」ねんねこ ねんねこ。お布団の中で読みたい、おやすみ絵本。

『ねこになっちゃった』 角野栄子/作 よしむらめぐ/絵 小学館 2020.7 ¥1100

となりのうちのねこのミミが、アコちゃんの家に来てきた。ミミとアコとトラトラちゃんとクマちゃんと一緒にねこあそびを始める。クレヨンでおひげをかいて、大きなあくびをして、のびをして。そこへやってきたお母さんも、おひげをかいてねこみたいにならなくて寝てしまい、とうとうアコちゃんも…。アコちゃんのまねをして、ねこあそびしながら読みたい絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『ベッドのなかはきょうりゅうのくに』 まつおかたつひで/作・絵 童心社 2020.7 ¥1400

絵本を途中までしか読んでもらえなかったばかりは、ねこのミーコと布団の中へ。ずんずん進むと、ティラノサウルスに追われるランベオサウルスの子どもに出会い、かくまってやることに。迷子になってしまったランベオサウルスのために、一緒にママを探す旅に出る。途中、アラモサウルスやプテラノドンに道案内をしてもらい…。夜の不思議な恐竜の世界を存分に楽しめる絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『パンフルートになった木』 巢山ひろみ/文 こがしわかおり/絵 少年写真新聞社 2020.8 ¥1400

小学校の校庭に根をはっていたカイズカイブキの木。よく晴れた夏の朝、被爆して黒こげに。長い年月をかけ、また緑の葉がしげるようになったが、のちに弱ってしまい切り倒すことに。この木はやがて「パンフルート」という笛になり、懐かしい小学校の子どもたちの元に帰ってくる。生きぬいた命をみんなに伝えるために、木の視点で描かれた、広島の小学校の被爆樹木の物語。

＜絵本－中学生から＞

『てのひらのあいさつ』 ジェyson・プラット/文 クリス・シーバン/絵 なかがわちひろ/訳 あすなろ書房 2020.7 ¥1200

誕生した我が子の小さな手をそっと握って握手した父。その父の手は、ある時はやすやすと眠るまで背中をとんとたたき、ある時は怪我をしてへこんでいる肩をぼんぼんとたたいた。時は流れ、子は父の手を必要としなくなり、さらに父は年老いて言葉もわからなくなるが…。生涯をかけて父が子に伝えたものは？温かい絵と文で父と子の絆を描いたアメリカの絵本を、絵本作家が翻訳。

＜読み物－小学校低学年から＞

『くろりすくんとしまりすくん』 いうひろし/作・絵 講談社 2020.5 ¥1200

地面の下にあなを掘って生活するしまりすくん。土を掘るのが得意。木の上の家で生活するくろりすくん。枝から枝へ渡るのが得意。こんな二人が出会ったのは春の初めのこと。お互いのいいところを発見しながら、楽しく過ごしていく。やがて季節は冬。冬眠をするしまりすくんとしないくろりすくん。それぞれどのように冬を過ごすのか。友情と愛に満ち溢れた温かいお話。

＜読み物－小学校中学年から＞

『AIロボット、ひと月貸します！』 木内南緒/作 丸山ゆき/絵 岩崎書店 2020.8 ¥1200

未来科学研究所のイベントで、10万人目の入場者になった小4の栄太。記念に、誰にも内緒で、自分で作る「分身AIロボット」を1か月貸してくれるという。説明書どおりに作って出来上がった栄太の分身。代わりに家のお手伝いをしてくれたり、学校でテストを受けてくれたりでもいいことづくめ。調子に乗っていた栄太だったが…。第35回福島正実記念SF童話賞大賞受賞作。

＜読み物—小学校高学年から＞

『きみの声が好きたくて』 オーウェン・コルファー/作 P.J.リンチ/絵 横山和江/訳 文研出版 2020.7 ¥1400

動物保護センターで、パトリックに引き取られたのは子犬のオズ。前の飼い主のひどい仕打ちのせいで吠えることができなかつたが、パトリックの深い愛情により元気になることができた。その後、両親が離婚するショックのため、パトリックがしゃべらなくなった。オズは、心を閉ざしてしまったパトリックに寄り添い、言葉を発することができることを願う。親友となった少年と犬の物語。

『怪奇漢方桃印 いかがか?相思相愛香』 廣嶋玲子/作 田中相/絵 講談社 2020.8 ¥980

小5のしのぶは、親友の紗菜が大地のことが好きなことを知ると、二人が仲良くなれるようにと、500円で「相思相愛香」を漢方屋から購入。香の効果か、二人が仲良くなると、なんだか気に食わなくなったしのぶは、紗菜の香をこっそり自分のランドセルへ入れ、大地と仲良くなることを企むが…。他に「角葉」の2編。日本全国を旅する、不思議な漢方屋・桃さんのお話。

＜読み物—中学生から＞

『跳べ、暁!』 藤岡陽子/著 ポプラ社 2020.7 ¥1600

長患いの末の母の死、父の退職による転校。揺れ動く暁の心の支えはバスケット。なのに中2の5月に転校した先の学校には、女バスがなかった! 中学受験に失敗した欣子と共に女バスを立ち上げ、タンザニア人の母と二人暮らしのリモ、父子家庭の本田など初心者部員が集まり…。真っ向勝負の暁が、バスケットを通して自分と向き合い、友達の家事情を理解する中で成長していく姿が清々しい。

『お庭番デイズ 上 逢沢学園女子寮日記』 有沢佳映/著 講談社 2020.7 ¥1500

逢沢学園女子寮で代々受け継がれている秘密の役職「お庭番」。この人助けのための偵察隊に何も知らないあたしたち「101号室」の3人が推薦された。そんなことあたしにできるわけないと、回避すべく全力でジタバタしたが、ついに観念。お庭番としての初仕事は、恋多きキュリア先輩が男子寮生に告ったことに関する情報収集だった。テンポのいい一人称で語られる愉快的学園物語。

『ワタシゴト 14歳のひろしま』 中澤晶子/作 ささめやゆき/え 汐文社 2020.7 ¥1400

修学旅行で広島県の原爆資料館を訪れる、あるクラスの中学生5人にスポットを当て、弁当箱、ワンピースなどをキーに、それぞれの悩みを抱えた彼らの心情を描く。この出会いが彼らに変化を及ぼすかも? 20年以上に渉る、作者と横浜の中学生との交流から生まれた作品。題名の「ワタシゴト」は、渡し事=記憶を手渡すこと、私事=他人のことではない私のことを意味する作者の造語。

『ぼくだけのぶちまけ日記』 スーザン・ニールセン/作 長友恵子/訳 岩波書店 2020.7 ¥1700

兄が亡くなって家族は崩壊寸前。心の傷を抱えたヘンリー(13歳)は父と二人で引越し、新しい学校生活が始まった。兄の死に責任を感じているヘンリーの日記を通して、少しずつ兄の死の全貌が明らかになっていく。いじめ、加害者家族、精神疾患などについて、少年の視点を通して描く。カナダ図書館協会児童図書賞などを受賞した作品。STAMP BOOKS。

＜ノンフィクション—小学校低学年から＞

『どうしてしんがたコロナになるの?』 松永展明/監修 金の星社 2020.8 ¥1300

ある日突然学校もお店も図書館もみーんなお休み。どうして? どうも「新型コロナウイルス」ってもののせいらしい。それなに? 原因や症状、感染防止等について、子どもにもわかりやすく解説。2020年7月時点でわかっていることをもとに制作。「やさしくわかるびょうきのえほん」シリーズ。他に、かぜ・インフルエンザ、熱中症、アレルギー、食中毒、手足口病・溶連菌の、全6巻。

『コウノトリがはこんだんじゃないよ!』 ロビー・H.ハリス/著 マイケル・エンパーリー/イラスト 上田勢子/訳 浅井春夫・良香織/監修 子どもの未来社 2020.7 ¥3400

「あかちゃん、どこからきたの?」「どうやってできたの?」「どんなふうにもうまれたの?」「おんなのこと、おとこのこのおなじところ、ちがうところは?」自分の体のことを知るのって楽しいよ! 子どもたちの興味に対して、正しい知識をやさしく伝える、性教育の絵本。原書は2006年イギリスで出版。親子で対話しながら、安心して読める本。

＜ノンフィクション—小学校高学年から＞

『スマホとゲーム障害』 内海裕美/監修 少年写真新聞社 2020.8 ¥1600

スマホやタブレットを使いすぎて、具合が悪くなったり、生活が活れたりしていませんか? 使いすぎによる体への影響「目の疲れ」「睡眠不足」「運動不足」などと、話題の「ゲーム障害」という病気を説明。中高生に多いスマホトラブル、オンライン授業の受け方など、今の子どもたちに必要な新しい生活スタイルにも対応。「健康ハッピーシリーズ」。

＜ノンフィクション—中学生から＞

『旅が好きだ! 21人が見つけた新たな世界への扉』 河出書房新社/編 河出書房新社 2020.6 ¥1400

作家・角田光代、イラストレーター・益田ミリなど、21人の旅好きたちが様々な視点から、漫画やエッセイで旅の魅力を伝える。旅に出る理由、旅先での想定外のハプニング、平安貴族など歴史上の人物の旅紹介、旅に関するネットの活用術など、それぞれの切り口で旅について楽しく語り、若者たちを旅へ誘う。巻末に旅のフックガイドあり。「14歳の世渡り術」シリーズ。

『文字の読めないパイロット 識字障害の僕がドローンと出会って飛び立つまで』 高梨智樹/著 イースト・プレス 2020.8 ¥1300

2016年、ドローンの全国大会で優勝し、18歳でドローン操縦・空撮会社を立ち上げ、現在21歳の著者が、自分の識字障害について語る。自分の努力が足りないと思っていた小学時代、識字障害と診断を受けた中学時代、親友と出会った高校時代。ひらがながやっとならぬ程度で漢字は全くダメという著者が、できないことはやらなくていい、できることを伸ばそうとメッセージを伝える。

＜研究書＞

『絵本で世界を学ぼう!』 吉井潤、柏原寛一/著 青弓社 2020.7 ¥1800

絵本を通して世界の国々の異なる文化や習慣に関心を持とう! 1ページごとに国旗や地図、人口などの情報と共に、その国に関連する絵本を1冊紹介。世界105か国に関するなるべく新しい絵本を選び、カラーの書影と書誌事項、対象年齢と共に、内容をわかりやすく紹介する。著者・吉井が図書館長時代の実践に基づいて選書し、もう一人の元図書館員が紹介文を担当。異文化理解の入口となる。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。